

で獅子舞大会を催した際、秘曲牝獅子隠しを上演した。これが現在につながる小松獅子舞である。

2、踊りの種類 道中をねり歩く時は通り囃子の曲を奏して、先頭には村役員が弓をもってつき、獅子の先頭は太夫獅子、二番目牝獅子、三番目牡獅子で、笛は管長一尺三寸の六孔笛、これが普通四人、それに締太鼓二人乃至四人つく。

踊りの種類は、三匹で踊るものには庭入り、大桐、山おろし、柴探し、女獅子かくし、揆舞、袖舞などがあり一匹獅子舞には太夫獅子の弊舞、太夫舞、女獅子の棒舞、女獅子舞、牡獅子の弓潜り、牡獅子舞などが残っている。幣舞小僧もついていた。

会津の彼岸獅子は彼岸の街頭踊を行なうためか、古くから伝えた舞の順序を追うことが少ない。三匹獅子舞には他地方にも広くみられるように、牝獅子一匹に対する牡獅子二匹のとりあい、三角関係の情緒が流れていることが特色で、栗生沢などは、全曲を通じてこれが流れているといってもよい。

小松でも、柴探しが、山にかくれた牝獅子を探す所作であり、女獅子かくしがその最高の踊りとみられる。

獅子舞には屋敷ほめ、門ほめなどの、ほめ言葉を含めた歌がたくさんあるが、この小松では次のようなものが歌われている。

○ この町は豎に十五里、横七里

入りは良くみて、出には迷うな

○ 詣りきて、ここのお庭を眺むれば